

学生の学びの把握

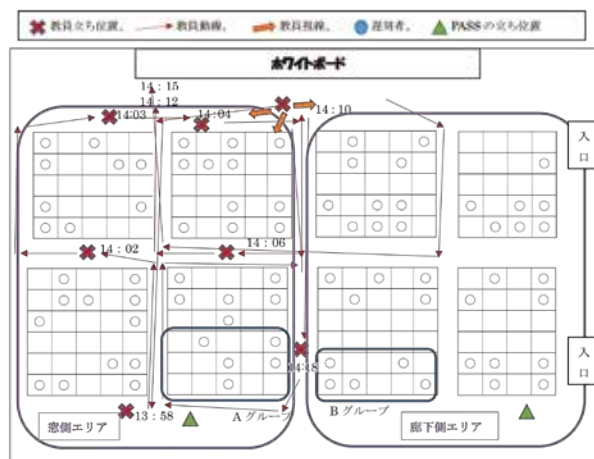
- 自分では気づくことが難しい講義中の学生の様子(内職や携帯、パソコンの使用、居眠り)についてデータ(人数と時間帯)が得られ、授業展開を改善することができた。
- ディスカッション時の役割分担、発言量について情報が得られ、指示の出し方やグループ編成の再検討につながった。
- 大学教員1年目だったので、PASSによる観察報告は授業に対する漠然とした不安を解消し、さらにコンサルタントとの振り返りによって具体的にどこを変えていけるか可視化できた。

学生への指示や関わり方の把握

- 講義およびグループワークで、自分の説明内容や指示について学生がどう反応しているか情報が得られ、授業の進行・方法を改善する材料となった。
- グループワークのやり方や進行が授業の内容に合っているかモニタリングできた。
- 授業中の学生へのアイコンタクト、当てている学生、そして、机間巡視する場所の偏りに気づいた。

受講生インタビューによる率直な意見

- インタビュアーが学生であるため、授業に関する生の声を聞き取りやすく、学生の持つ授業への印象、授業を妨げている要因、学生の要望、今後教員は何に気をつけるべきかなど、率直な意見を知ることができた。学生同士何でも言える雰囲気の中で聞き取った受講生の意見は信頼性が高い。



授業観察報告書のサンプル

授業観の変化

- 大学教員の授業に対する視点を知ることができ、以前より授業に積極的に参加するようになりました。
- 同じテーマの授業でも、教員と学生のコミュニケーションや学生の授業を受ける態度によって、まるで違う授業の進み方になることがわかりました。
- 他学部の授業を見て、同じ大学なのに自分の学部の授業と授業のスタイルや雰囲気が違うことに驚き、自分がどのように授業に参加するかを振り返る機会となりました。

自己の成長

- 報告書作成・提出などによって、仕事をする相手である教員との距離・コミュニケーションの取りかたが身につきました。
- 授業を客観的に観察したり、同時に起こる状況を記録したり、観察した内容を報告書として作成する力がついたように思います。
- 研修や実際のPASSの仕事でインタビューを行うなかで、インタビューを行う際に注意することがわかってきました。
- 授業を受ける際に毎回、教員がどのような学びを提供しようとしているのか意識できるようになりました。



PASS

ポスター発表を聴く学生を観察するPASS

PASS利用に関する Q&A

- Q 創価大学のどの学部の教員でもPASS利用申し込みができますか?
A はい、全学展開しています。
- Q PASSの授業観察時に教員の様子のビデオ撮影もしてもらえますか?
A はい、対応しています。

創価大学 教育・学習支援センター (CETL)

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236

TEL 042-691-9782 FAX 042-691-4799

<http://cetl.soka.ac.jp/>

Peer Assessment Support Service

Peer Assessment Support Staff

学生と教員の協同による
授業改善支援活動



創価大学では 学生と教員が協同で授業改善に 取り組んでいます

PASSとは

PASSは創価大学 教育・学習支援センター(CETL)が行なっているFD(Faculty Development)活動の一環です。PASSにはPeer Assessment Support ServiceとPeer Assessment Support Staffという二つの意味があります。前者が授業改善サービス、後者が前者のサービスを支援する訓練を受けた学生スタッフです。以下、PASSは学生スタッフを表します。PASSは、依頼教員の要望に沿った授業改善のための情報を、授業観察や受講生インタビューなどにより収集します。

学生による情報収集を軸にした授業改善の試みは、アメリカではSCOT(Students Consulting on Teaching)と呼ばれます。日本では帝京大学が先駆的に導入し、少しずつ広がっている学生参画型FDの一つです。

SCOTでは、情報収集した学生が直接、教員と授業改善について話し合います。一方、本学では、学生や依頼教員の状態に応じて、提供するサービスを段階分けしています。



教室の後ろで授業観察するPASS

第1段階

授業改善を希望する依頼教員に対して、授業改善に必要な情報が、あるいはどのように改善したらよいのか、CETL教員が相談にのります(授業コンサルテーション)。相談をもとに、CETL教員がPASSに情報収集を指示します。そして、PASSが収集した情報をもとに、CETL教員が依頼教員の振返りを支援します。

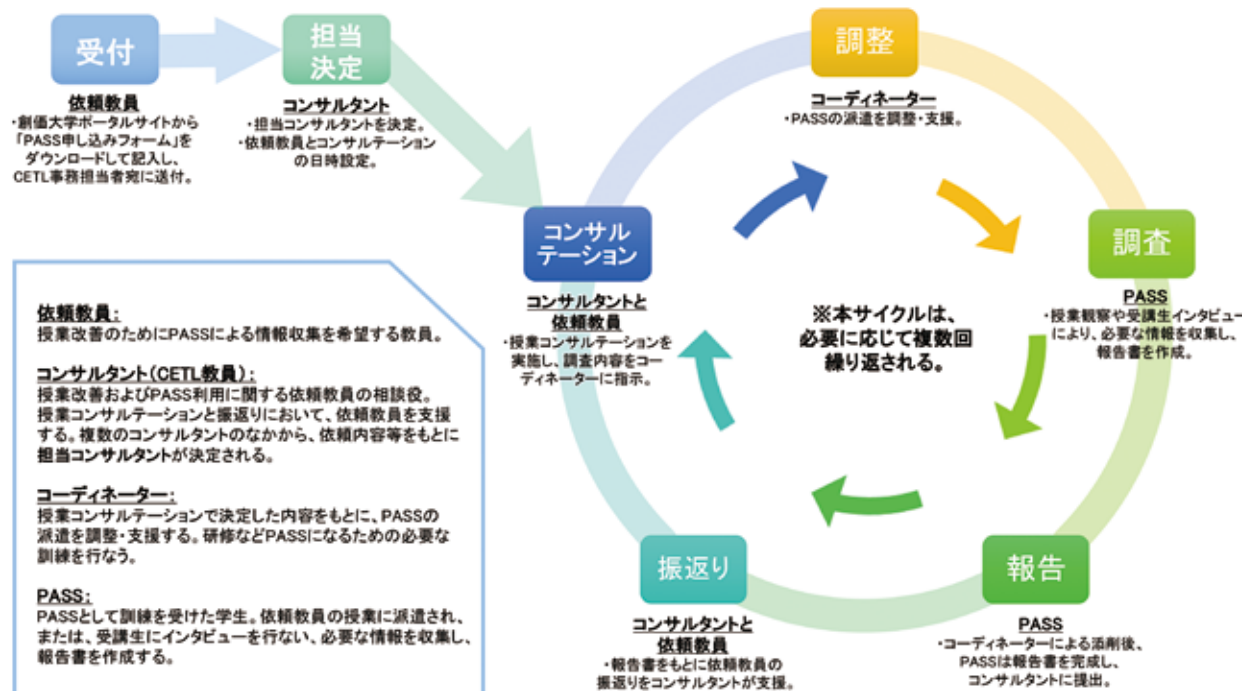
第2段階

授業改善に必要な情報が明確な教員からの依頼の場合、CETL教員との授業コンサルテーションを省き、PASSに情報収集してもらうことができます。ただし、PASSが収集した情報はCETL教員を経由して依頼教員に報告されます。

第3段階

SCOTと同様なサービスを行います。授業改善経験を積んだ依頼教員が、経験を積んだPASS(シニアPASS)と一緒に、授業改善を考えます。教員は直接PASSと協議し、自分の欲しい情報やその収集方法を指示します。要請のない限り、CETL教員は介在しません。

PASSによる情報収集のサイクル



PASSになるには

合計5回の研修(右表参照)を受け、授業観察や受講生インタビューについて学びます。実践に必要な知識やスキルを身につけた学生のみ、CETL教員との面接を経てPASS登録が認められます。



PASS研修会の様子

PASS登録に関する Q&A

Q PASSになれる学年は決まっていますか？

A 1年生は大学生活に慣れていただくために募集していません。また、就活や留学などで、研修後の活動時間が限られてしまう方は応募時に相談してください。

Q PASSの活動は学期中にどれくらいですか？

A 依頼件数によりですが、学期中に担当するのは2~3科目です。ひとつの科目で学期中に1~3回の情報収集を行います。

PASS研修の概要

第1回	教員目線から授業を考える	・大学教員にとって授業とは何か？ ・授業はどのようになされるか？ ・授業改善とは何を行なうことか？
第2回	学生の利点を生かす方法を考える	・授業改善のための情報とは何か？ ・情報の収集方法とは何か？ ・授業改善のための支援とは何か？
第3回	実際の授業を観察する(1)	・実地研修として、実際の授業を先輩PASSとともに観察する。 ・観察報告書を先輩PASSとともに作成する。
第4回	実際の授業を観察する(2)	
第5回	インタビューの仕方を学ぶ	・受講生インタビューのロールプレイを先輩PASSで行なう。

*所要時間は第1、2、5回が1.5時間。第3、4回が約45分の授業観察とその後の報告書作成に1.5~2.0時間。登録後も、慣れるまで必要に応じて先輩PASSと一緒に活動します。